

COVID-19 蔓延下における医療・公衆衛生学研究の実施

執筆者：山中 拓也 2019 年度採用（7 期生）

所属機関：London School of Hygiene and Tropical Medicine (LSHTM) and School of Tropical Medicine and Global Health, Nagasaki University

研究テーマ：Mitigating the economic impact of TB and diabetes in the Philippines

略歴

東北大学理学部物理学科卒。KPMG ヘルスケアジャパンにて日本のヘルスケア事業のコンサルタントとして勤務したのち、長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科にて 2018 年 9 月公衆衛生修士号 (MPH) 取得。2018 年 10 月よりロンドン大学衛生熱帯医学大学院 (LSHTM)・長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科の Joint PhD Programme に所属。

上記 MPH・PhD と並行して、2017 年に WHO 西太平洋地域事務局・結核ハンセン病対策課で 5 ヶ月間インターンシップに参加、2018 年は同課にてコンサルタントとして勤務。2019 年以降は WHO 本部・Global TB Programme にてコンサルタントとして勤務している。

COVID-19 の博士研究活動への影響

COVID-19 の感染拡大に伴い、多くの方が日常生活上の影響を受けていることと思います。日常生活のみならず、博士課程の研究においても長期に渡る影響が出ています。私の場合、2020 年の年始から博士課程の研究を進めるためロンドンへ渡航しましたが、ヨーロッパでは 2020 年 3 月頃から急速に感染拡大したため、ロンドン滞在予定を急遽変更し 2020 年 4 月に日本へ帰国してきました。

前回のエッセイ寄稿でも記載いたしましたが、私の博士課程研究テーマは、フィリピンの結核・糖尿病を併発している患者を対象に費用負担状況を調査し、いつ・どのような患者群に・どのような社会保障の拡充が必要なのかという新たなエビデンスを示すことを目的としています。2020 年の 6 月～10 月頃にかけて、研究の一部となる「結核患者に糖尿病スクリーニングを提供する際の提供者側の追加費用」に関して、フィリピンに渡航・フィールドデータ収集実施予定でした。しかしながら、日本・フィリピン双方での COVID-19 感染拡大に伴い、日本からフィリピンへの渡航及びフィリピン国内移動が難しくなったことから、研究活動の延期を余儀なくされました。フィールドデータ収集の延期期間（2020 年 5 月～現在）は計画を大幅に変更し、研究テーマの一部である「糖尿病スクリーニングを結核診断・治療のアルゴリズムに統合した場合の費用対効果分析」に必要な数理モデルの構築に、専らデスクワーク・文献検索を中心に取り組んでいます。

一方、延期したフィリピンでの現地データ収集は、日本・フィリピンともに感染状況が改善しないどころか拡大傾向が続いているため、現地渡航・直接のデータ収集を諦め、「現地データ収集担当者を雇用・リモートでトレーニング実施・データ収集もリモートで管理・監督」という代替的な手法に切り替える事となりました。一次データを取得する場合、医療・公衆衛生に関する研究では倫理審査・承認手続きが必要となりますが、私の場合は所属する LSHTM・長崎大学の倫理審査委員会とフィリピン現地の倫理審査委員会からの承認が必要となります。今回の研究活動は COVID-19 感染拡大下でリモートでのデータ収集管理となることから、インタビュー対象者・データ収集担当者双方の COVID-19 の感染リスクをどうマネジメントするのかという点や、感染急速拡大時のデータ収集にかかるコンティンジェンシープラン、リモートデータ管理上のデータクオリティ担保方法など、通常の審査ではあまり問われない内容が頻繁に問われました。

2021年7月に前述した3つの倫理審査委員会からの承認取得できたため、2021年9月にデータ収集トレーニングを実施し、2021年10月からデータ収集を開始する予定です。

WHO での業務への影響

博士課程と並行して、WHO 本部・世界結核対策プログラム (Global TB Programme) にて医療経済分野に特化したコンサルタントとして勤務しています。WHO 本部での勤務も COVID-19 に影響を受けており、WHO 本部は COVID-19 対応にあたっている WHO Health Emergency のチームとその他各部署の Director クラスのみがオフィス出勤可能という状況にあるため、多くのスタッフ・コンサルタントが自宅からリモート勤務しています (自国に帰国してリモート勤務している人も多くいます)。

COVID-19 感染拡大前の私の業務は、各国で結核患者家庭の費用負担状況全国調査 (TB Patient Cost Survey) を実施支援すること (country support) が中心でした。現在は、COVID-19 の影響を受けて、各国への出張対応ができないことや、結核対策のサービスが COVID-19 感染拡大の影響を受けていることを踏まえて、country support は一時的に縮小し、今まで各国で実施された全国調査の調査手法や分析手法のレビューに注力しています。Country support が縮小したことは残念ですが、普段後回しになりがちな調査・分析手法のレビューや今後の改善点のあぶり出しに、腰を据えて時間をかけて取り組む良い機会となっています。

最後に、COVID-19 感染拡大下も博士課程での研究を支援いただいている FASID 奨学金プログラムには感謝しております。今後も博士研究活動に邁進してまいりたいと考えております。